



働く力 ～桜の職業準備性ピラミッド～

さいたま桜では、単に“会社に就職する”ことを目指しているのではなく、長く働き続け、社会に役立ち、自分らしく生きる力を『働く力』と捉え、3年間学んでいます。

右の図は就労に向けて身につけておきたい生活習慣や技能、知識などを本校独自にまとめたものです。

①心と体の健康管理

- 感情のコントロールができる
- 指示、助言を素直に聞ける
- 嘘、ごまかし、言い訳をせず、正直である
- 身体を清潔に保つ習慣が身についている
- 十分な睡眠がとれている
- 一定時間働ける体力がある
- 自分の得意、不得意が理解できる

②日常生活管理・基本的な生活リズム

- 規則正しい生活が身についている
- 毎日休まず通勤できる
- 栄養やバランスに考慮した食事がとれる
- 一人で公共交通機関が利用できる
- 服薬の管理、通院ができる
- 適切なお金の使い方ができる

③社会的な生活能力・対人技能

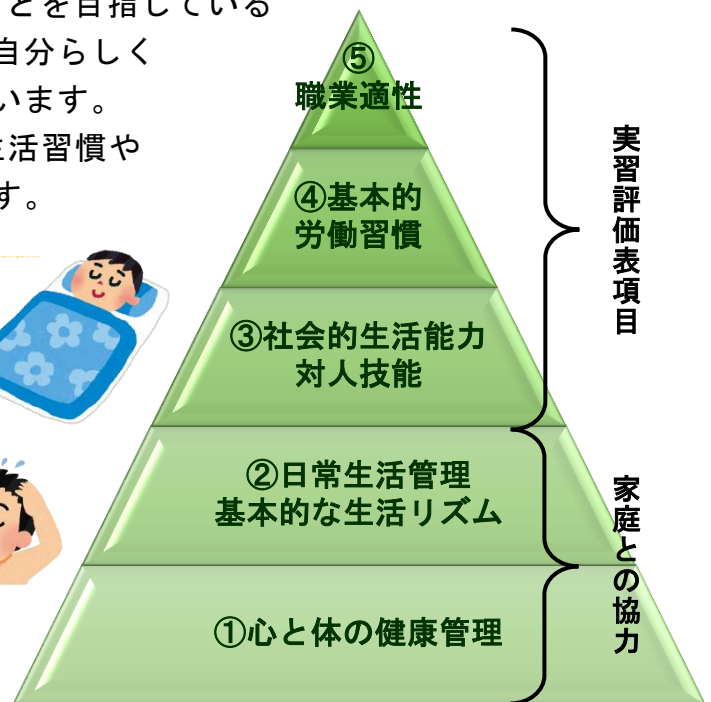
- 挨拶・返事ができる
- 相手や場に応じた言葉遣いや会話ができる
- 必要な連絡、報告ができる
- 適切な身だしなみができている
- 始業、休憩時間等の時間が守れる

④基本的労働習慣

- 指示を理解し、それに従って仕事ができる
- 仕事に対して意欲、積極性がある
- 分からない時、困った時に確認や質問ができる
- その場に指導者がいなくてもまじめに取り組める
- 職場のルールや安全を意識して仕事ができる

⑤職業適性

- 人と協力して仕事ができる
- 作業工程を理解して見通しを持った仕事ができる
- 長時間でも働ける集中力、体力がある
- 必要なスピードで正確な仕事ができる
- 効率よくできるように考えて仕事ができる



①②の基礎となる部分は家庭との協力が不可欠です。担任と連携して客観的な現状を把握し、正しい生活習慣を身につけ、適切な支援をご家庭と学校で協働して行う必要があります。採用に当たり、仕事の技術や知識より、①②に当たる基本的な生活の部分を求める企業が多いことがわかりました。

いくら仕事の技術があっても土台となる①や②が確実でないと全てが崩れてしまいます。ある特例子会社の社長さんは、職業準備性ピラミッドについて「①+②+③…の足し算ではなく、①×②×…の掛け算である。」と言っています。即ち、どこか1つでも0があると、全てが0になるということなのです。